

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

金沢市立伏見台小学校

①児童アンケート

(1) 英語科(小学校5年生:令和8年1月実施) (％)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	40.0	37.0	20.0	3.0	0.0
問2	英語科の勉強は大切だ。	86.0	13.0	1.0	0.0	0.0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	58.0	36.0	6.0	0.0	0.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	26.0	53.0	19.0	3.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	33.0	45.0	16.0	5.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	85.0	13.0	2.0	0.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	78.0	16.0	4.0	1.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	63.0	29.0	7.0	1.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	40.0	40.0	16.0	3.0	0.0

(2) デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思う	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	75.0	15.0	7.0	2.0	1.0
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	78.0	14.0	5.0	2.0	1.0
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	78.0	14.0	6.0	1.0	1.0

②指導改善の具体策

【英語科】 問5・問6の結果から、双方向のやり取りに自信をもてない児童が見られる。そのため、身近な話題について英語で話す機会を継続的に設定し、質問したり答えたりすることに慣れ親しませる。また、児童が「伝えたい」と思える単元ゴールを設定することで、相手とやり取りする楽しさや喜びを実感できるようにしていく。
【デジタル科】 問1の結果から、自分やみんなのことを考えてICTを活用できているか「分からない」と回答した児童が見られた。ICTを活用した協働学習や目的に応じた情報活動を充実させ、適切な活用場面を価値づけることで、ICTを正しく活用することのよさや意義に気付けるようにしていく。

③学校関係者評価

・児童が積極的に英語で自分の考えを発言する姿が多く見られた。 ・間違いを恐れずに友達や教師と英語でやり取りをしようとする様子が見られた。 ・英語教育の継続の成果として、児童に主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が育っていると感じた。
・高学年だけでなく、低学年の児童においても、タブレット端末の基本的な操作に慣れており、楽しそうに学習に取り組んでいた。 ・授業中に、自分の考えをまとめたり、友達と考えを共有したりするなど、ICTの良さを取り入れながら学習を進める様子が見られた。